

# 社会福祉法人ますみ会 平成28年度事業計画

特別養護老人ホームますみ荘（介護老人福祉施設・短期入所生活介護）  
ますみ荘介護サポートセンター（居宅介護支援）

## 『基本理念』

＜運営方針＞	人権を尊び 人の人生を思いやり 慈愛と奉仕の精神を貫く 誠実・努力・健康	＜私の誓い＞	自らの仕事に誇りを持ち 公明・平等 明るい・暖かい施設をつくります
--------	---	--------	---

## 『施設運営方針』

『利用者はもとより、地域より信頼される施設を目指します』

利用者の人格及び意思を尊重し、家庭復帰を目指し明るく楽しく家庭的な雰囲気の中で、活力ある日常生活を営むことが出来るよう個人個人の生活を支援し、自立支援に努める。

家族をはじめ、ボランティア、地域社会との関わりを深め、各行事を通じて地域全体で活力ある高齢者像の実現に努める。

職員は、受容、傾聴、連帯の精神で常に自己研鑽に努め、その専門性を高めサービスの質の向上を図る。

利用者や地域社会から、信頼される介護サービス提供に努める。

社会福祉法人として、地域社会に貢献することを目指す。

## 『事業の目標』

- ①個性を重視した専門性の高いサービスの提供
- ②情報開示の充実を図り、事業運営の透明性を高める
- ③経営を取り巻く環境の構造的変化に対応し、長期に渡り持続可能性を確保する為に財政面を重視した今後の設備等の保守に備え、経費節減に努めながら自主的経営基盤の充実を図る
- ④(福)ますみ会と(医)誠和会の協調による、福祉、医療の総合化
- ⑤福祉の潜在ニーズ発掘と社会福祉資源の活用による地域への貢献

## 『サービス目標』

「安心・信頼・温もりをかたちに」

## 『事業方針と計画』

### 1. 利用者援助事業

- ①職種間及び各階介護室長・主任間の連携により、利用者の状態把握をより細かく行い、その情報を職員全員が共有しケアプランに反映させ、利用者の自主性、ニーズを尊重したサービスの質の向上と事故防止に努める。
- ②ホール、居室におけるレクリエーション、機能訓練のメニューを充実し個々の状態、利用者のニーズに合ったサービスの提供を行う。
- ③認知症の方の気持ちをしっかり受け止め、人としての尊厳を大切にその人らしい生活を送れるよう支援する。

- ④介護の重度化が進行する中でも離床活動を促進し、寝たきり防止を図る。
- ⑤季節ごとの各種行事、実習生、ボランティア等との交流を通じて社会参加の機会を多く作る。
- ⑥常に利用者、家族とのコミュニケーションに努め、ニーズの把握と各部署の連携を図り、利用者の満足度、自立度の向上に努める。

## 2. 利用者の健康管理と安全

- ①年1回の利用者検診、週2回の嘱託医の回診、随時の病院受診、眼科、歯科往診などにより健康管理の徹底を図る。
- ②介護、看護職員及び管理栄養士等の連携により、医学的にも栄養面からも褥瘡防止に努める。
- ③歯科医の指導、協力を得て、口腔ケアの徹底による健康管理に努める。
- ④2フロアでの入浴を同時に実施し、入浴時間に「ゆとり」をもたせた入浴サービスに努める。
- ⑤インフルエンザ予防接種実施、その他感染症の予防に努める。
- ⑥空調、加湿器、換気による温度、湿度管理の徹底により生活環境の改善を図る。
- ⑦毎日の清掃、年1回の大掃除実施により生活環境の清潔保持を図る。
- ⑧事故報告の内容分析、ケースカンファレンスから、個々の状態を把握し事故の予防に努める。

## 3. サービスの質向上について

### ①会議

#### ・ケースカンファレンス

月1回実施。各職種の立場で個々の利用者の現状と課題について、仔細に多様な角度から検討し事故等の予防対策を含めてケアプランに反映させるとともに、利用者のニーズにも対応する為の検討会とする。経口維持や経管からの経口移行への取り組みについては、日々の嚥下状態の報告を受け、主治医から維持や変更の指示を受ける。

介護職が行う口腔内吸引に関して、家族への同意を得て、荘内で定める方法にて必要に応じ実施しケアプランに反映させていく。

#### ・ミニカンファレンス

適宜実施し、直面している問題への検討やケアプランの見直しを行っていく。

#### ・看取りカンファレンス

ターミナル期を悔いなく過ごしていただけるように利用者、家族の意向を確認しながら援助していく為の検討会を行う。

#### ・各部署会議

月1回実施。各部署の日常業務について検討、確認、連絡、報告を行い業務の徹底を図る。

#### ・業務会議

月1回実施。各所属長、各委員長等にて法人内の業務について検討、確認、連絡、報告を行い業務の徹底を図る。

#### ・全体会議

月1回実施。各会議、各委員会の決定事項の報告を全職員に行い業務の徹底を図る。又、外部研修の報告を行い、全職員にフィードバックを図る。

### ②委員会

#### ・サービス検討委員会

利用者の持つ問題について、分野毎に問題解決を目指したサービスと利用者の要望を含め個々の本当に必要なサービスを検討、研究を行う。

- 1) 人権を重んじ、人としての生活を第一に考え、安全、清潔、快適なサービスを提供できるよう研究、検討、実施する。

- 2) 利用者のニーズを捉え、安全でより快適なサービスを提供できるよう研究、検討を行う。
  - 3) 人の尊厳を守り、個々に応じた排泄介助の方法や用具の研究、検討を行う。
  - 4) 生活の活性化を図る為に自立を支援する環境づくりに努め、たとえ全介助状態になった時にも安全、安楽な介護が提供できる環境を整えていく。
  - 5) 医師の指示及び管理栄養士、介護士による入所者の食事摂取機能を考察し、個別栄養計画の作成にもとづき個別栄養管理を行い低栄養の予防に努める。
- ・安全管理委員会  
事故報告事例の分析によってマニュアルを整備し、事故予防と発生時対策を徹底する。利用者にとって快適な住環境であるよう、清潔、安全、住み易さなど環境整備を行い安全管理に努める。
  - ・感染症・褥瘡予防委員会  
マニュアルに基づき、各感染症に対する予防の徹底、発生時の早期対応の徹底、職員研修により適切な対処を徹底する。
  - ・口腔ケア委員会  
歯科医の指導内容を全体会議にて全職員に伝達し口腔ケアの向上を研鑽していく。
  - ・身体拘束0検討委員会  
ケアプランの見直し、日々の見守り、その他の状況などにより、入所者及び他の利用者の生命又は身体保護の為、緊急やむを得ない場合を除き身体拘束その他行動の制限をしない介護の実現に取り組む。
  - ・給食委員会  
全体給食として、全体のメニューや行事食等の検討も行き、楽しみある食事を提供していく。
  - ・活動委員会  
利用者の生き甲斐や自己主張の出来る場所として、利用者の求めるサービスを提供できるよう内容を検討し、利用者が積極的に参加できる環境作りに努める。
    - ・レクリエーション活動：利用者のニーズに合わせた小グループ単位の内容とする。
    - ・文芸活動：季節を感じる作品作りを楽しみながら残存機能の維持を図る。
    - ・園芸活動：利用者に潤いを与える生花、鉢植えの整備を図る。
  - ・衛生委員会  
産業医の助言等により、職員の健康管理（身体的・精神的）や職場環境改善に向けた検討を行うと同時に、利用者を含めた施設全体の健康管理に配慮する。
  - ・入所判定委員会  
介護保険制度に基づく入所判定指針により、透明性、公平性を確保した待機者の入所審査、判定を行い、円滑な入所を図る。
  - ・親睦委員会  
職員の働きやすい職場が結果として、サービスの質の向上に結び付くことから、職員の親睦と福利増進を図る為の行事等を企画・運営する。

#### 4. 機能回復訓練

- ①医師の指示及び生活相談員、介護士、看護師、介護支援専門員との協働により個別機能訓練計画を作成し、計画的な機能訓練を実施する。
- ②口腔機能維持回復の為の訓練に取り組む。
- ③利用者の意向を最優先し、無理のない訓練を継続的に行う。
- ④寝たきりであっても覚醒を促す働きかけを行い、状態に応じた個別訓練を実施する。
- ⑤遊ビリテーションやカラオケなどによる、楽しく継続できる訓練を実施する。

## 5, 利用者の食事

- ①日々の喫食状態を観察し、食事摂取量低下の方や嚥下機能低下の方にも安全に提供出来る食事形態を取り入れる。
- ②行事食を取り入れ、季節感を感じるメニュー、食材、食べやすい食器を工夫し、家庭的で食欲をそそるものを取り入れる。
- ③ターミナル期の方への食事に関しては、個々の状態把握に努め、栄養価よりも望むものを探って提供する。
- ④清潔、消毒、整理整頓に努め、食中毒予防に努める。

## 6, 利用者の家族

- ①利用者の精神的安定を図るには、家族の協力が重要であり、家族と施設のコミュニケーションを常に図る。
- ②事故報告、利用者状況報告を常に行い、利用者の状態を家族に認識してもらう。
- ③談話室などを利用し、利用者と家族のくつろぎの場を提供する。
- ④家族参加行事を取り入れ、広報活動に努め積極的な参加を促す。
- ⑤利用者に対するサービス内容などへの意見、要望を集めサービスに反映させる。
- ⑥預り金の出納状況を定期的に送付し管理を厳重に行う。
- ⑦入所時退所時に、預り金、預かり品はチェックシートにより管理を徹底する。

## 7, 地域交流事業

- ①利用者、職員、施設とも地域の一員として社会参加し、施設の持つ社会資源を地域 社会の為に積極的に提供する。
- ②(福)ますみ会(ますみ荘・ますみ荘介護サポートセンター)と(医)誠和会(倉敷記念病院・老健施設福寿荘・在宅センターせいわ・倉敷西高齢者支援センター(地域包括)等)は常に連携し、地域への福祉、医療に関する情報提供、相談業務などに努め地域の福祉、医療の総合的拠点としての役割を行う。
- ③社会福祉の啓蒙活動として、地域に福祉活動の学習機会を提供する。
- ④業務に支障のない範囲で、ボランティア、実習生の受け入れを積極的に行う。
- ⑤盆踊り、運動会、ふれあいまつり等の行事に、地域住民、ボランティア、家族、職員の参加を促進し、利用者には社会参加の機会を提供する。
- ⑥地域に施設設備を解放し、要介護状態にならない為に、自主的リハビリとして「介護予防教室」を実施する。
- ⑦各種情報ネットワークを活用し、情報開示を行う。

## 8, 防災対策

- ①防火・地震・風水害対策マニュアルを整備し、非常時に備える。
- ②防火設備、各種設備の整備点検を行い、利用者の安全を図る。
- ③消火、避難誘導、通報訓練を定期的を実施する。
- ④地域防災委員、医療法人誠和会との連携を図る。
- ⑤自営消防隊の消火訓練を実施する。
- ⑥倉敷市特養連絡協議会の災害時応援体制を整備する。
- ⑦震災等に備え、効率的な備蓄品を備える。

## 9, 苦情解決の取り組み

- ①利用者、家族などからの苦情について、迅速かつ誠実に対処する。苦情は「貴重なご意見」としてサービスの改善に取り入れる。
- ②受付窓口の設置、ご意見箱の設置、第三者苦情等解決委員会で検討、入退所時に利用者、家族に利用説明を徹底する。
- ③平素から利用者のご意見を広く集め、家族とのコミュニケーションを図り、介護状況の理解を深める。
- ④介護サービス、高齢者虐待、セクハラ、公益通報者保護等の苦情受付窓口を一本化し、苦情の申し出を受けやすくする。

## 10, 在宅サービス事業

高齢者福祉の拠点として、入所待機者へのアプローチ等地域ニーズの吸収に努め在宅サービスの促進・充実を図る。

### ①短期入所生活介護事業

ケアプランを基に、利用者ニーズに合ったサービス提供に努める。  
新規利用の開拓、再利用の促進を図る。

### ②居宅介護支援事業（ますみ荘介護サポートセンター）

介護相談、介護保険利用など地域住民のニーズに対し、培った経験、知識と親切さをもって応え、相談して良かったと思われる援助、利用者が満足するサービス計画をする。  
計画は、利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じて自立した生活を営むことが出来るよう配慮する。特別養護老人ホームますみ荘と共に、施設のもつ社会資源を積極的に解放、提供し、倉敷記念病院など医療法人誠和会と連携して高齢者福祉、医療、保険サービスの一翼を担う。

## 11, 人材育成

- ①職員の資質向上と、サービス提供者としての意識付けを図る為に、それぞれ経験年数に応じて基本的知識、技術を繰り返し徹底した研修を行う。
- ②外部研修に積極的に参加する。
- ③介護士研修会を定期開催し、知識、技術の向上と業務の統一化を図る。
- ④各職種間の職域理解を深める為に、栄養研修、看護研修、介護研修に職域を越えて参加する。
- ⑤認知症介護に関する専門的研修に積極的に参加する。
- ⑥自己研鑽を促進する為に、資格取得の為の支援、研修を行う。
- ⑦各段階の研修を年間指導研修計画により実施する。

## 12, 人材確保

介護事業における全国的な人材不足は、健全な事業運営を揺るがす事態である。引き続き、介護保険制度や報酬の改善を求めていく。

積極的に情報発信を行いながら人材確保の活動を継続すると共に、人材育成や職場環境の整備に努める。特に若い世代に魅力ある職場、活力ある職場作りを図ると共に現職員の就労支援事業として子育て支援を行っていく。

## 【 最後に 】

介護・福祉事業者として「利用者第一」を念頭にサービスを提供する。社会福祉法人としての使命を全うし、地域の期待に応えられるよう介護・福祉・医療の連携に努める。

